

1 本題材における『学習の個性化』を充実することで期待する生徒の姿と『学習の個性化』を促す手だて

「学習の個性化」を充実することで期待する生徒の姿

- ・ 音楽的な見方・考え方を働かせながら、課題や自分に合った見方・考え方を選択し活用・実践する姿
- ・ 多様な音や音楽、音楽文化への興味が広がり、主体的に学びをつなげて理解を深めようとする姿

「学習の個性化」を促す手だて

- ・ 生徒個人の「興味・関心」をベースにした課題設定
- ・ 題材全体を見渡せるワークシートの作成

2 題材の展開および『学習の個性化』を促す手だての具体と生徒の姿

題材概要

「交響曲第5番八短調」のよさや魅力について、音楽的な見方・考え方で聴き深め、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、他者へのプレゼンテーションを行う。

第1時 動機やソナタ形式について理解する。

◎動機について理解する。

- ・ 曲と出会い、最初の印象を書く。
- ・ 楽曲の一部を鑑賞し、動機のリズムが出てくる回数を数える。
- ・ 楽譜をもとに、動機がどのように反復・変化しているか確かめる。

◎ソナタ形式について理解する。

- ・ 楽曲がソナタ形式できていることを知る。

◎各自で視点を選択し、提示部を聴き深める。

- ・ 鑑賞の視点(音楽の要素など)から、着目する視点を選択し、提示部を鑑賞する。
- ・ 聴き深めてわかったことや新たな疑問などをグループ内で発表する。

第2時 各自の視点で聴き深め、曲の魅力を見つける

◎前時を振り返る。

- ・ 第1楽章提示部のよさや魅力についてグループ内で振り返る。
- ・ 再現部からコーダまで全員で鑑賞する。

◎各自で鑑賞の視点や計画を立て、聴き深める。

※ウェビングを用いて、楽曲を形づくっている要素や視点を見つける。

※視点(音楽の要素)や鑑賞計画を立てて、個人で鑑賞する。

- ・ プレゼンテーションに向けて、楽曲のよさや魅力について、根拠をもって説明できるようにまとめる。

楽曲を形づくっている要素



楽曲を形づくっている要素



第3時 新たな疑問や課題を自ら立てながら、魅力を見つける。

◎前時を振り返り、計画を見直す。

- ・鑑賞するときに選んだ視点（音楽の要素）や見つけた魅力などについてグループ内で情報交換する。

◎プレゼンテーションに向けてまとめる。

※鑑賞している楽曲のよさや魅力について、視点（音楽の要素）以外にも興味があることがあれば自由に調べる。

第4時 交響曲第5番のよさや魅力を発信する。

◎交響曲第5番のよさや魅力について発表する。


- ・4人グループで、パワーポイントや音源を使用しながら発表する。
- ・学級全体の中から数名代表で発表する。

◎学習のまとめと振り返りを行う。


- ・探究や友達の発表をもとにウェビングに赤で書き足す。
- ・第1楽章を鑑賞しながら学習を振り返る。

2種類の動機で題名の理由を考察!! 『交響曲第5番 八短調』

動機とは?
皆さんもご存知の『タタタ・ターン』
これが動機と呼ばれる。



①を楽譜で表すと②を楽譜で表すと




音楽史上最大の嘘つき男、詐欺師

2種類の動機! ?

★私はこの曲を何回も聴いているうちに大きく分けて2種類の動機があるのではないかと考察した。

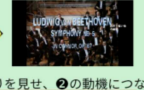
①小さい音×遅い速度×高い音色

動画で切り取った部分は、動機がいくつも連続している部分である。
直前で、よく耳にする大きくてダイナミックな動機とはガラリと変わり、繊細な印象を受ける。



②大きい音×遅い速度×低い音色

①で紹介した繊細な動機のすぐ後に演奏されるダイナミックな動機。
直前では①の動機がだんだんと盛り上がりを見せ、②の動機につながっている。



なぜ弟子はこの曲を『運命』と名付けたのか?

★『小さな出来事がいくつも重なり、それがだんだんと速度を増しながら、ある一つの結果に繋がる。』=運命

①の動機を日々の小さな出来事、②の動機をある一つの大きな結果とする。

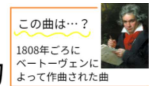
①の動機が重なっていく

②の動機が重なっていく

この展開をわかりやすく言うなら...
毎日毎日嫌なことが重なり、モヤモヤしたまま散歩をしていたら交通事故に遭ってしまった。のような感じ。

強弱の視点から見る

「交響曲第5番 八短調」の魅力

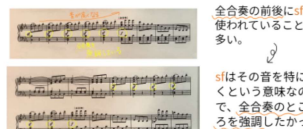


この曲に登場する強弱に関する記号

各部分の強弱記号

	各部分の強弱記号と回数	気づいたこと
提示部	sf:10回 ff:6回 f:2回 p:2回	sfが多くなる回数が多い。ffが少なくなる回数が多い。
展開部	sf:2回 ff:2回 p:3回 piu:2回 dim:1回	sfが多くなる回数が多い。ffが少なくなる回数が多い。
再現部	sf:11回 ff:3回 f:2回 p:3回	sfが多くなる回数が多い。ffが少なくなる回数が多い。
コーダ	sf:9回 ff:6回 f:2回 p:1回 pp:1回 sempre:1回	sfが多くなる回数が多い。ffが少なくなる回数が多い。

強くする記号の使われているところ



全合奏の前後にsfが使われていることが多い。

sfはその音を特に強くするという意味なので、全合奏のどこかを強調したかったのではないのか。

この曲の強弱の特徴から分かる曲の魅力

この曲はソナタ形式の提示部、展開部、再現部、コーダの4つの構成の中で思いっきり強くなる場所と弱くなる場所など強弱の変化が大きく変わることが特徴です。特に全合奏の前後にかけて強くする記号が多く使われている。提示部から展開部に切り替わるころの強弱と弱くなる場所とこの変化など今回のように強弱という一つの観点で見ても皆さんの工夫が見つかりました。ぜひ皆さんもこの「交響曲第5番 八短調」を聞いてベートーヴェンが残した様々な工夫を見つけてみてください!

3 本実践の成果と課題

本題材を通して、生徒たちは自らの興味や関心をもとに立てた(選択した)課題について、自分に最適な方法(音源・文献・インターネット・楽譜・総譜)を選択しながら、探究をすることができていた。共通課題を「曲の魅力を見つけること」と設定し、視点(音楽を形づくっている要素や曲の背景など)を選択させることは音楽科における学習の個性化に有効だと感じた。第4時に行ったウェビングに追記する活動では、生徒が単元を通して得た学びや友達の発表から得た新たな視点を次々と書き足す姿が見られ、「個性化」をすることでそれぞれの知識や関心の幅が広がったり、深まったりすることがわかった。

課題としては、音楽科の年間計画の中でより効果的に個性化を取り入れるためには、単元計画の段階で、発表形態(今回はポスターによるプレゼンテーション)をコンパクトにして、より短時間で探究ができるよう工夫していく必要があると感じた。

